# 2021年1月　園だより

園長　小西　只剛

## あけましておめでとうございます

〜新しい年を迎えました。幸せな暮らしは平和な社会があってこそ。

子どもたちの未来のために平和な社会を共に築いていきましょう〜

12月は、さくらさんと職員とで“さるかに”の劇を行いました。ホールが現在使えないためうみの部屋を使って幼児クラスの3，4歳児チューリップ、なのはなさんの子どもたちに見てもらいました。さくらさんたちは照れながらも張り切って劇を演じ、お客になった子どもたちはわくわくしながら楽しんで観ていました。劇が終わった後、お客さんの子どもたちからは、「ぜんぶ楽しかった！」「おサルが面白かった」「サルが倒れるところが面白かった」など感想もたくさん聞かれました。友だちと力を合わせて表現することを楽しむことは子どもたちにとって大切な取り組みです。この経験をもとにさらに友だちとの関係を深めていってほしいなと思っています。

また、24日（木）には年の暮れの「餅つき」を行いました。今年度は、コロナの感染対策として子どもたちには餅っこでついたお餅を食べてもらい、杵でついた餅は鏡餅にして、ののかぜ保育園の子どもたちをはじめみんなに幸せが訪れるようにと玄関や各クラスに飾りました。

子どもたちが健やかに大きくなりますように！大人たちも健康で過ごせますように！　そして、コロナが少しでも早く終息しますように！
今年も、父母と職員で力を合わせながら子どもたちの育ちを支えて行きましょう。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

コロナで世界中が疲弊している中、地球を出発して6年、往復52億キロの旅を経て「はやぶさ2」が地球に“玉手箱”を届けてくれました。この玉手箱の中には小惑星りゅうぐうで採取された貴重な資料が封入されています。玉手箱を届けた「はやぶさ 2」は、カプセルを切り離した後、次の小惑星「1998KY26」を目指し再び遠い宇宙へと旅経ちました。「はやぶさ2」の先輩である「はやぶさ」は、小惑星イトカワへの着陸による資料採取を世界で初めて成功させ、地球に持ち帰りました。しかし、様々なトラブルに見舞われ、満身創痍の状態で、一時は地球帰還が絶望視された中、その危機的状況を乗り越え、地球帰還を果たしたことが大きな感動をもらいました。

「はやぶさ2」は「はやぶさ」の技術をしっかり確立し、さらなる前進を目指して計画されました。その目標が見事に達成されたのです。

地球から　離れた小惑星りゅうぐうに到着させ、そこで数々の難関を乗り越え貴重な資料を採集してきたこと、そして無事地球に帰還させ、イオンエンジンの燃料も半分残した状態で、また新たなミッションに旅立った「はやぶさ2」の素晴らしさ。

「大人はすごいことをやっている。とんでもないことに挑戦し、面白い未来を作っている。未来には希望はしっかりあり、大人になることは楽しいことだ。そう子どもたちに感じて欲しい」と「はやぶさ 2」の意味をプロジェクトマネージャーの津田雄一さんが語っています。今を生きる子どもたちがこの感動を基に大きく羽ばたいていって欲しいと思っています。